

お客様各位

大建工業株式会社

防耐火認定書類（写）の使用に際してのご注意

拝啓 時下益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、この度は弊社製品をご採用またはご検討いただき誠に、ありがとうございます。

ご要望の表記資料を使用いただく際に、注意していただきたい事項がございます。下記事項を、ご確認、ご了解の上、ご利用いただくようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 認定書は、防耐火構造上、国土交通大臣に認められた構造仕様の範囲を示すものです。外壁の仕様、断熱材など各資材は、認定書に記載されている仕様を満たすものを選定するようにお願いいたします。（認定範囲外となった場合、防耐火構造の性能上の問題が生じるおそれがあります。）実際の設計、施工においては、認定書と共に弊社および各材料メーカーのカatalog、施工要領書に記載の事項をご確認いただき、それに従ってください。
2. 各防耐火認定ごとに、建物及び下地の構造（軸組/枠組、木製/鋼製 など）、外装仕上がり材の仕様（基材、厚さ、形状等）、工法（通気、直張り、充填断熱、外張り断熱等）、断熱材の仕様、屋内側防火被覆材（内装材）の指定の有無など認定範囲が異なりますので十分ご確認ください。
3. 認定書は、認定書構造をご採用いただいた物件の確認申請、あるいは防耐火構造としての仕様確認のためにご提供するものです。本来の目的以外ではご使用されないよう、お願いいたします。
4. これらの注意点は新築時だけではなく、外壁や断熱の改修時にも配慮が必要となります。ご留意のほどよろしくお願いいたします。

以上

2025/7/2 改訂



認 定 書

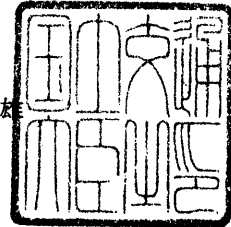
国住指第2527号

平成 18年 1月 23日

大建工業株式会社

代表取締役社長 井邊 博行 様

国土交通大臣 北側 一郎



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法第2条第八号並びに同法施行令第108条第一号及び第二号(外壁(耐力壁):各30分間)の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PC030BE-0723

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

グラスウール保温板充填／木繊維混入セメントけい酸カルシウム板・火山性ガラス質複層板表張／木製軸組造外壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

別 添

1. 構造名：

グラスウール保温板充てん／木繊維混入セメントけい酸カルシウム板・火山性ガラス質複層板表張
／木製軸組造外壁

2. 申請仕様の寸法：

申請仕様の寸法を表1に示す。

表1 申請仕様の寸法

項 目	申 請 仕 様
壁高さ	構造計算等により構造安全性が確かめられた寸法
壁厚さ	134mm以上
柱、間柱間隔	500mm以下

3. 申請仕様の主構成材料：

申請仕様の主構成材料を表2に示す。

表2 申請仕様の主構成材料

項 目	申 請 仕 様
柱 (荷重支持部材)	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は構造用集成材 寸法：105mm×105mm以上
間柱	材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は構造用集成材 寸法：30mm×105mm以上
外装材	<p>材料：窯業系サイディング（JIS A 5422） （以下「サイディング」という） ①、②又は③</p> <p>組成：</p> <p>①木繊維補強セメント板 （JISの難燃2級以上） A)木繊維混入セメント・けい酸カルシウム板 けい酸カルシウム化合物 70～80 質量％ 有機質繊維 10～15 質量％ 無機質繊維 0～5 質量％ 有機質混和材 0～3 質量％ 無機質混和材 10～15 質量％ B)硬質木片セメント板 セメント質原料 73～78 質量％ 木片 22～27 質量％</p> <p>②繊維補強セメント板 （JISの難燃1級） セメント質原料 65～85 質量％ 有機質繊維 2～8 質量％ 無機質繊維 0～6 質量％ 有機質混和材 0～3 質量％ 無機質混和材 7～30 質量％</p> <p>③繊維補強セメント・けい酸カルシウム板 （JISの難燃1級） けい酸カルシウム化合物 65～96 質量％ 有機質繊維 0～5 質量％ 無機質繊維 0～4 質量％ 有機質混和材 0～3 質量％ 無機質混和材 0～30 質量％</p> <p>但し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繊維質原料 有機質：木繊維、パルプ、ポリビニルアルコール、 ポリプロピレン 等 無機質：ガラス繊維、ロックウール、マイカ、セラミック繊維等 ・ 混和材 有機質：木粉、メチルセロース、撥水剤 等 無機質：バーライト、炭酸カルシウム、タルク、シラスパルーン 等

つづき

外装材	<p>表面塗料：</p> <p>種類：①～⑥の一</p> <p>①アクリルウレタン樹脂系塗料 ②アクリル樹脂系塗料</p> <p>③アクリルシリコン樹脂系塗料 ④ふっ素樹脂系塗料</p> <p>⑤エポキシ樹脂系塗料 ⑥ポリシリコン樹脂系塗料</p> <p>塗布量：200g/m²以下（有機固形分）</p> <p>密度：1.1±0.2Mg/m³</p> <p>形状：</p> <p>1)外形寸法</p> <p>厚さ：15mm～25mm</p> <p>幅 ：最小303mm～最大600mm</p> <p>長さ：最小910mm～最大3640mm</p> <p>2)端部形状 （サディング相互の重なりと隙間）</p> <p>重なり：9mm以上</p> <p>隙間 ：3mm以下</p> <p>3)断面形状</p> <p>厚さ：15mm～25mm</p> <p>最小板厚（中実部）：11mm以上</p> <p>模様深さ：容積欠損率：11%以下</p> <p>（但し、板厚15mmを超える場合は裏面から15mmの位置での欠損率とする）</p> <p>中空率：37%以下</p> <p>（但し、板厚15mmを超える場合は厚さを増した分だけ中空部高さを増すことができ、中空率を上げることができる）</p> <p>張り方：①又は②</p> <p>①横張 ②縦張</p>
構造用面材	<p>材料：火山性ガラス質複層板（JIS A 5440）</p> <p>厚さ：9mm以上</p>
断熱材	<p>材料：①又は②</p> <p>①グラスウール保温板（国土交通大臣認定不燃材料：NM-8605）</p> <p>②ロックウール保温材（国土交通大臣認定不燃材料：NM-8600）</p> <p>厚さ：50mm以上</p> <p>密度：10kg/m³以上</p>

4. 申請仕様の副構成材料：

申請仕様の副構成材料を表3に示す。

表3 申請仕様の副構成材料

項 目	申 請 仕 様
胴縁	材料：①又は② ①なし ②日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は下地用製材 寸法：幅40mm以上、外装材目地部 幅40mm以上2列
受材	(構造用面材に縦方向の繋ぎがある場合に使用) 材料：日本農林規格に適合する針葉樹の構造用製材又は下地用製材 寸法：40mm×40mm以上
防水紙	材料：①又は② ①アスファルトフェルト430 (JIS A 6005) ②透湿防水シート (JIS A 6111)：厚さ0.17mm以下 材質：1)、2)又は3) 1)ポリエチレン 2)ポリエステル 3)ポリプロピレン
目地部材	材料：①～④のー ①パッパ材とシーリング材の併用 ・パッパ材 材質：1)又は2) 1)発泡ポリスチレン 2)発泡ポリスチレン 使用量：2.4g/m以上 ・シーリング材 (JIS A 5758) 材質：1)～6)のー 1)ポリウレタン系樹脂 2)アクリルウレタン系樹脂 3)ポリサルファイト系樹脂 4)変成ポリサルファイト系樹脂 5)シリコン系樹脂 6)変成シリコン系樹脂 使用量：56g/m以上 ②ハット形ジョイナーとシーリング材(①仕様)の併用 ・ジョイナー 材質：1)～11)のー 1)熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302) 2)塗装熔融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3312) 3)熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3317) 4)塗装熔融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 (JIS G 3318) 5)熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3321) 6)塗装熔融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 (JIS G 3322) 7)ポリ塩化ビニル被覆金属板 (JIS K 6744) 8)熱間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4304) 9)冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305) 10)塩化ビニル (但し、①シーリング材56g/m以上充てん) 11)ポリプロピレン (但し、①シーリング材56g/m以上充てん) 厚さ 1)～9)： 0.25mm以上 厚さ 10)～11)： 0.3mm以上 ③金属ジョイナー(材質：②1)～9)仕様) 形状：ハット形、H形 等 厚さ：0.25mm以上 ④なし 本実、合いじゃくり又は突付け目地の場合

つづき

外装材留金具	<p>材料：①又は②</p> <p>①冷間圧延ステンレス鋼板 (JIS G 4305)</p> <p>②溶融亜鉛めっき鋼板 (JIS G 3302)</p> <p>寸法：幅40mm以上、高さ40mm以上、厚さ：0.8mm以上</p> <p>掛かり代面積：1.75cm²以上</p> <p>掛かり代寸法：(図7参照)</p> <p>上実の総幅：15.8mm以上</p> <p>下実の総幅：14mm以上</p> <p>上実の高さ：4mm以上</p> <p>下実の高さ：3.4mm以上</p>
留付材	<p>外装材留金具固定用：</p> <p>材料：①、②又は③</p> <p>①スクリューくぎ (JIS A 5508)：胴径φ2.2mm×38mm以上</p> <p>②リングくぎ (JIS A 5508)：胴径φ2.2mm×38mm以上</p> <p>③タペーンねじ (JIS B 1122)：胴径φ3.0mm×25mm以上</p> <p>留付け間隔：外装材働き幅(600mm以下)</p>
	<p>胴縁固定用：(胴縁を使用する場合)</p> <p>材料：①～④のー</p> <p>①鉄丸くぎ (JIS A 5508)：N50以上</p> <p>②ステンレス鋼くぎ (JIS A 5508)：SFN50以上</p> <p>③太め鉄丸くぎ (JIS A 5508)：CN50以上</p> <p>④十字穴付き木ねじ (JIS B 1112)：胴径φ3.1mm×50mm以上</p> <p>留付け間隔：500mm以下</p>
	<p>構造用面材固定用：</p> <p>材料：①～④のー</p> <p>①鉄丸くぎ (JIS A 5508)：N50以上</p> <p>②ステンレス鋼くぎ (JIS A 5508)：SFN50以上</p> <p>③太め鉄丸くぎ (JIS A 5508)：CN50以上</p> <p>④十字穴付き木ねじ (JIS B 1112)：胴径φ3.1mm×50mm以上</p> <p>留付け間隔：周辺部100mm以下、中央部200mm以下</p>
	<p>受材固定用：(受材を使用する場合)</p> <p>材料：①～④のー</p> <p>①鉄丸くぎ (JIS A 5508)：N50以上</p> <p>②ステンレス鋼くぎ (JIS A 5508)：SFN50以上</p> <p>③太め鉄丸くぎ (JIS A 5508)：CN50以上</p> <p>④十字穴付き木ねじ (JIS B 1112)：胴径φ3.1mm×50mm以上</p> <p>留付け間隔：左右木口付近から斜め打ち二本以上</p>
	<p>防水紙固定用：</p> <p>材料：工業用テープル (JIS A 5556)</p> <p>材質：1)又は2)</p> <p>1)ステンレス鋼線 (JIS G 4309)</p> <p>2)鉄線 (JIS G 3532)</p> <p>寸法：幅10mm以上、足長10mm以上</p> <p>留付け間隔：500mm以下</p>

つづく

つづき

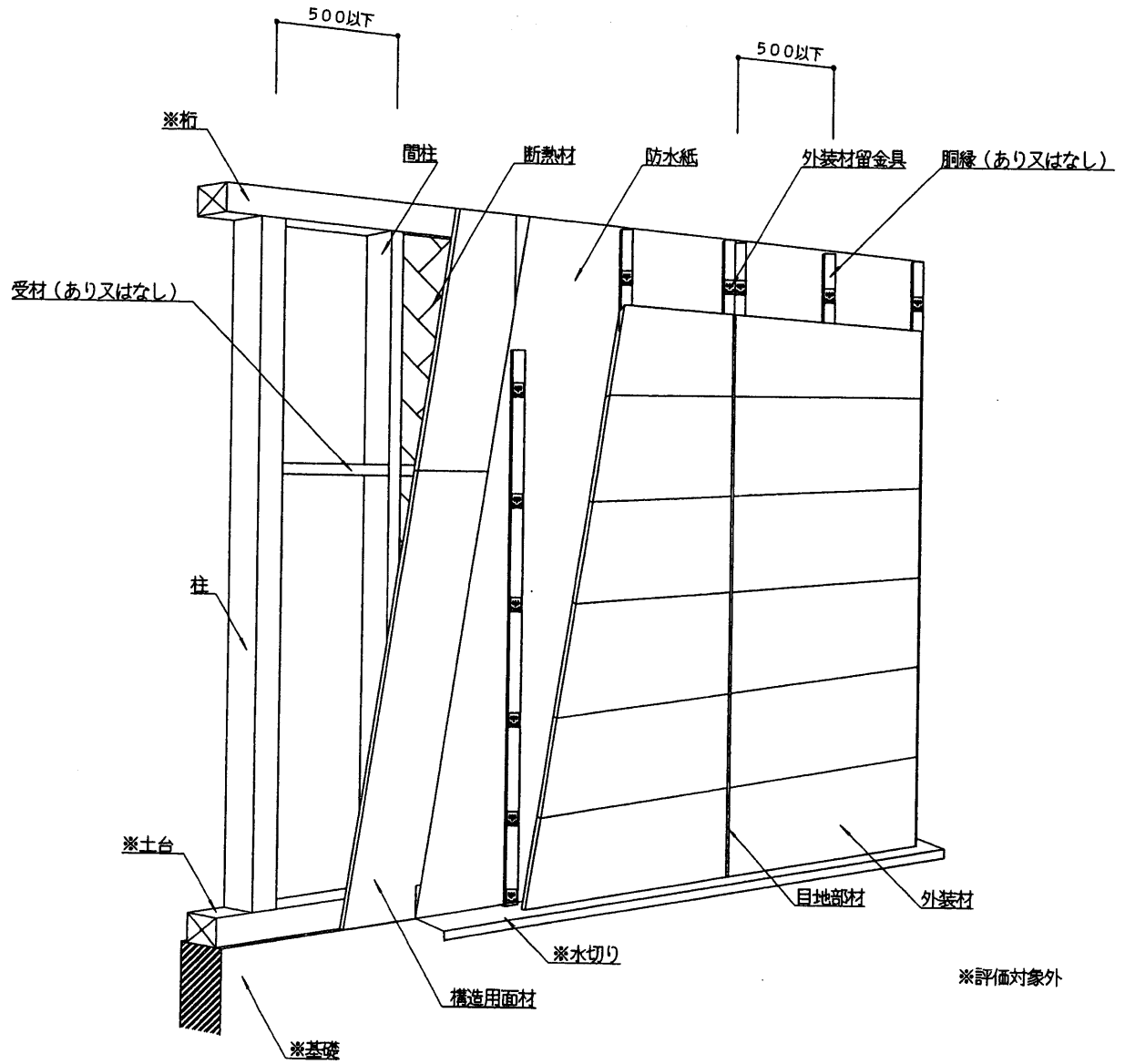
留付材	断熱材固定用： 材料：工業用ステンプル（JIS A 5556） 材質：1)又は2) 1)ステン鋼線（JIS G 4309） 2)鉄線（JIS G 3532） 寸法：幅10mm以上、足長10mm以上 留付け間隔：200mm以下
-----	--

5. 申請仕様の構造説明図：

申請仕様の構造説明図を図1～図7に示す。

外装材横張

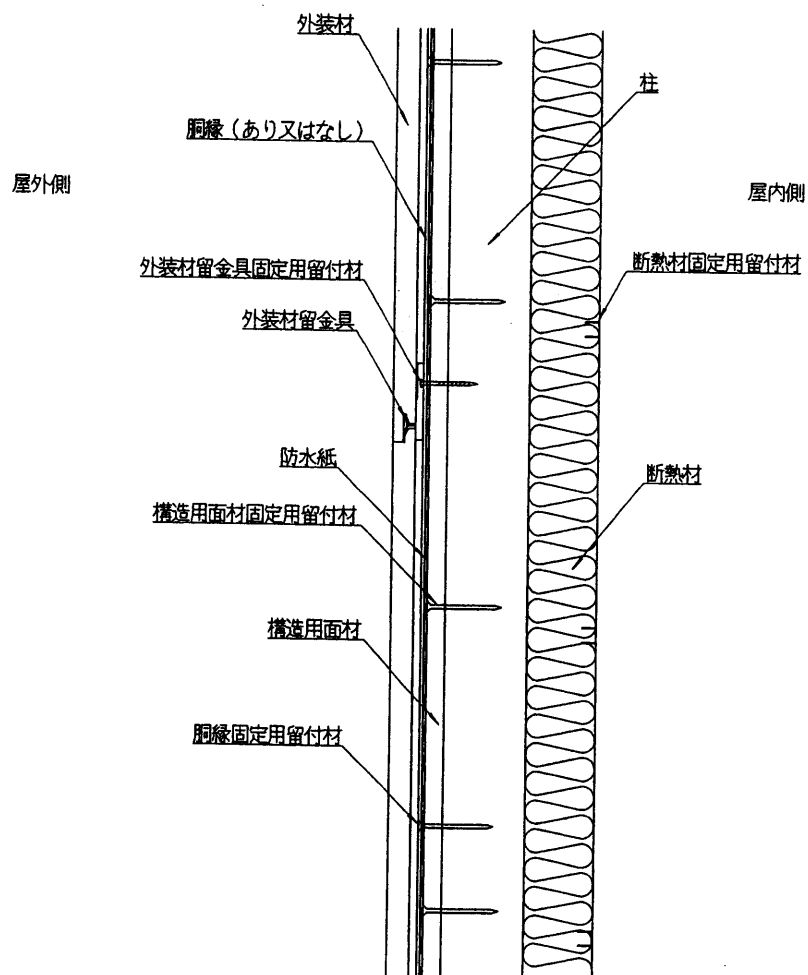
単位mm



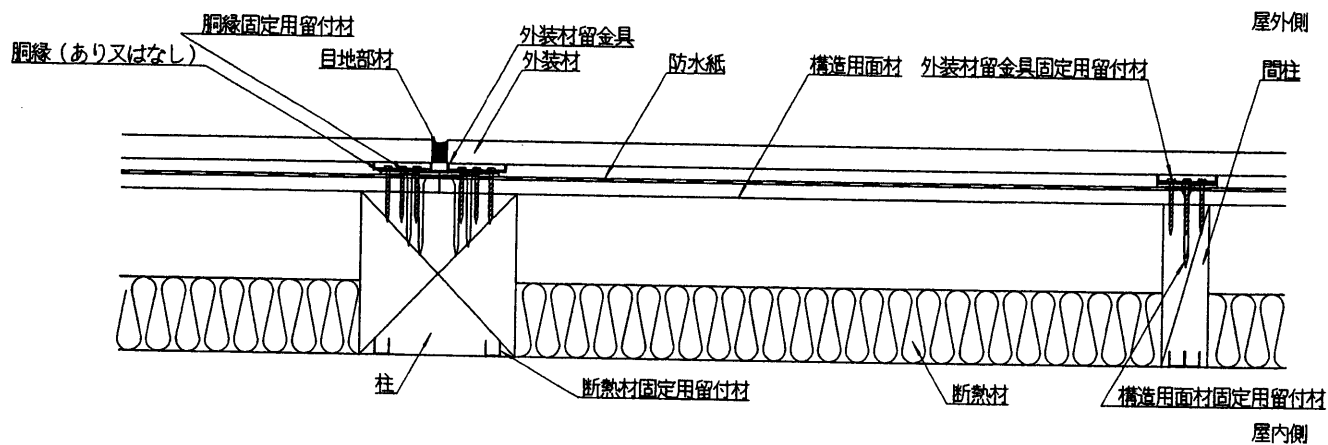
透視図

図1 構造説明図

外装材横張



鉛直断面図

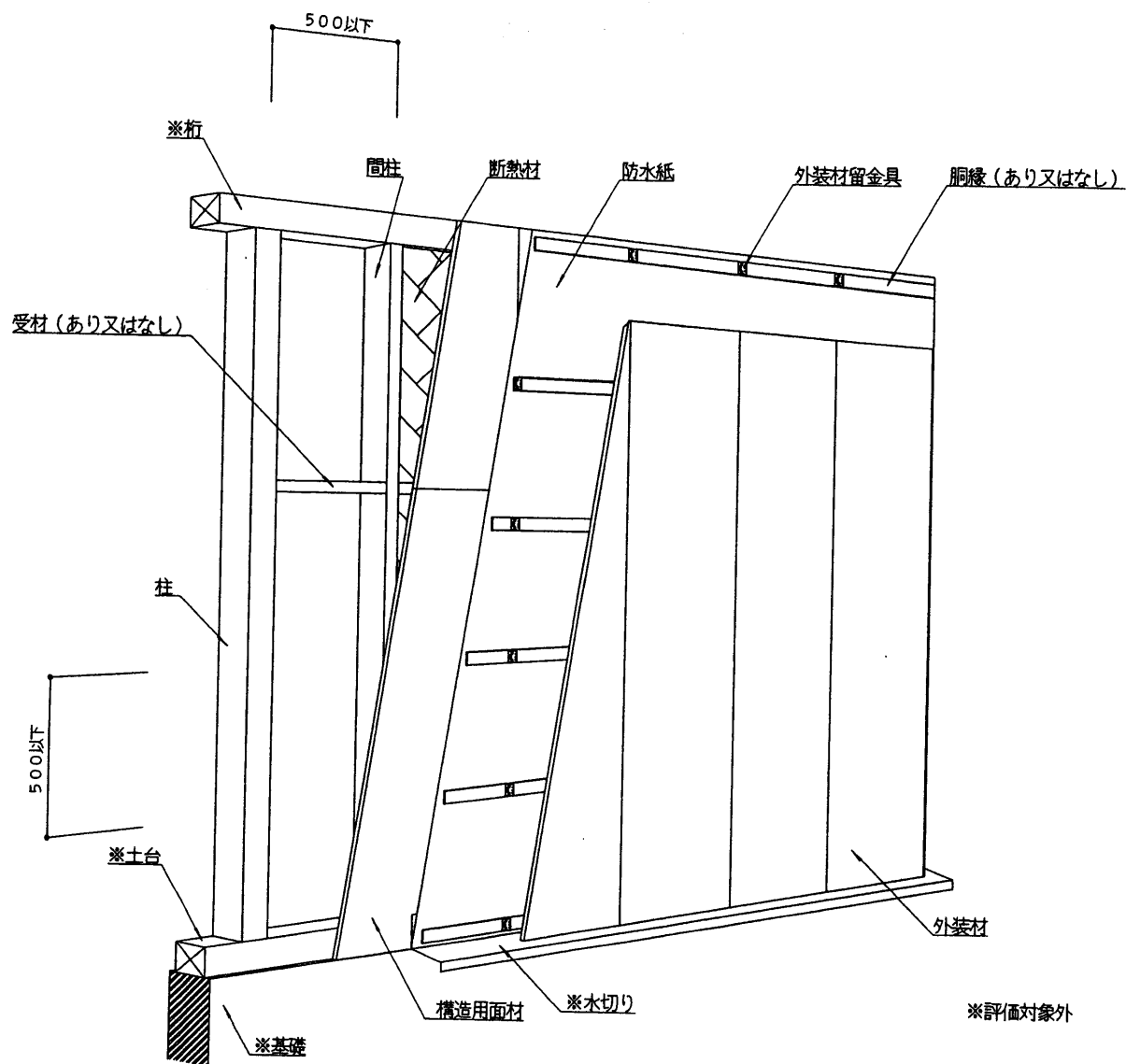


水平断面図

図2 構造説明図

外装材縦張

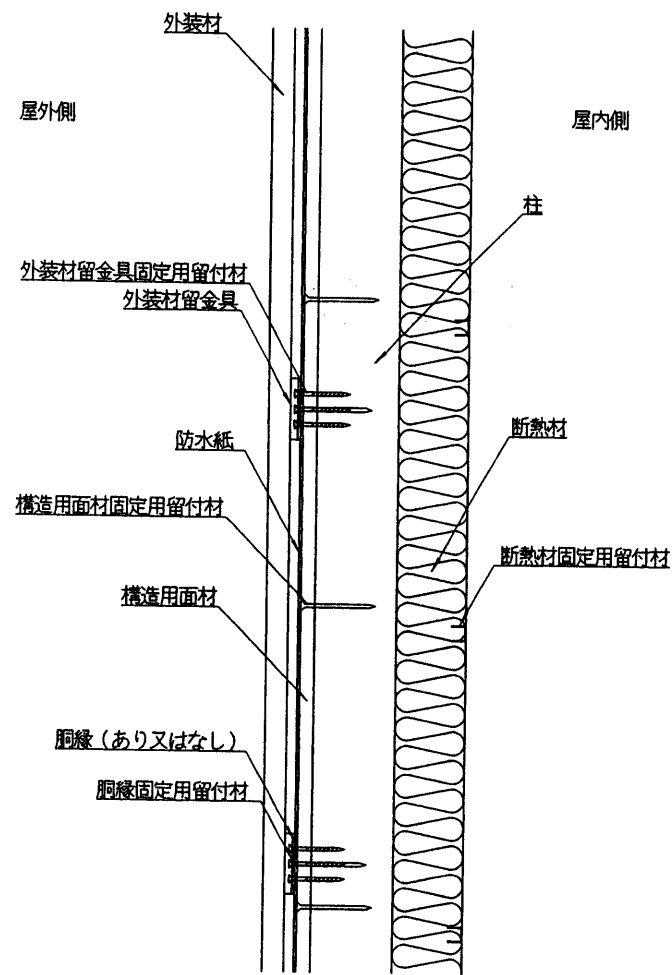
単位mm



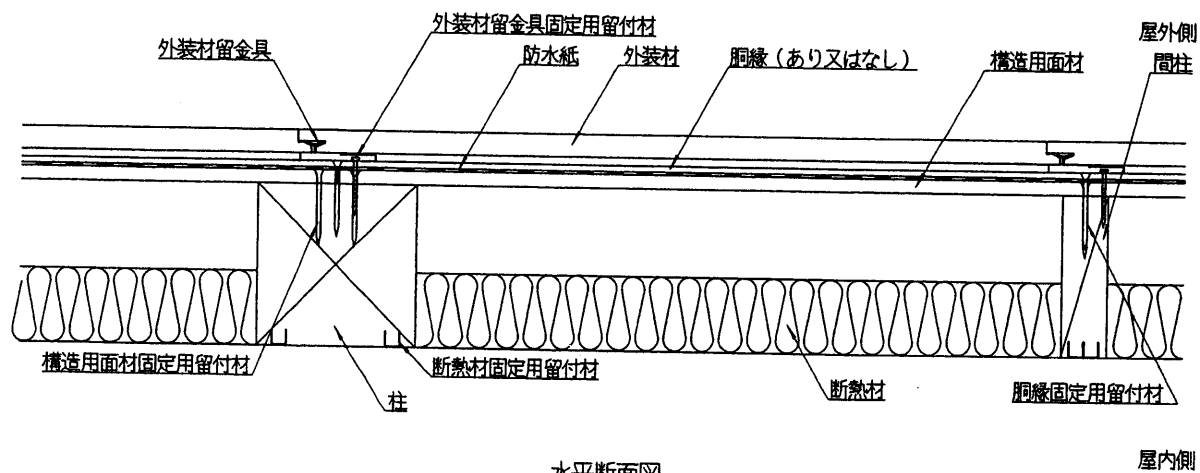
透視図

図3 構造説明図

外装材縦張



鉛直断面図



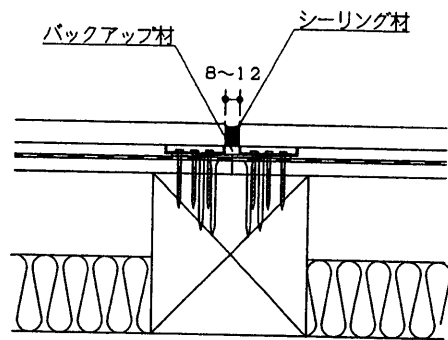
水平断面図

図4 構造説明図

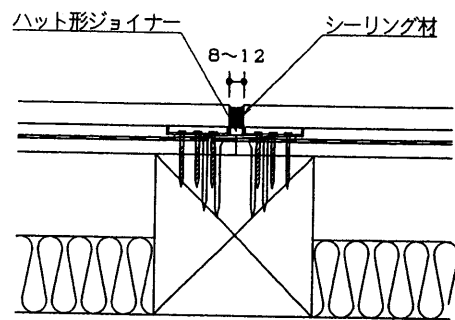
目地部材

単位mm

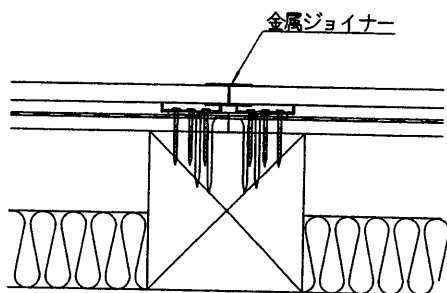
①バックアップ材とシーリング材の併用目地



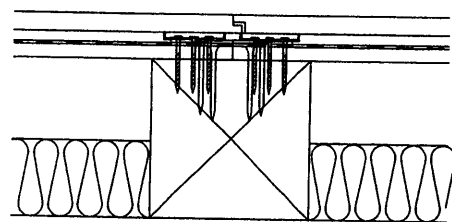
②ハット形ジョイナーとシーリング材の併用目地



③金属ジョイナー目地



④本実・合いじゃくり目地



⑤突付け目地

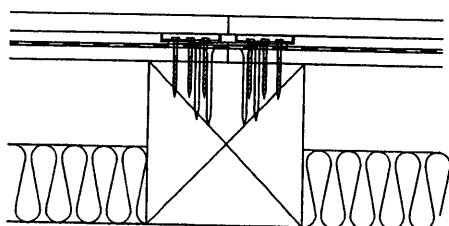
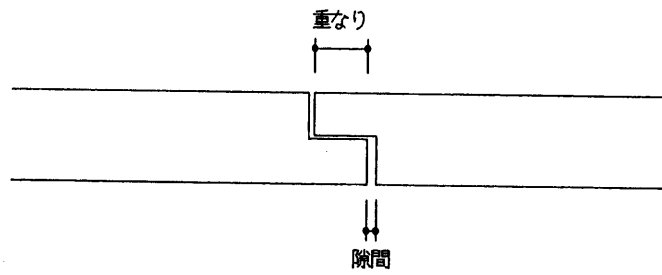


図5 構造説明図

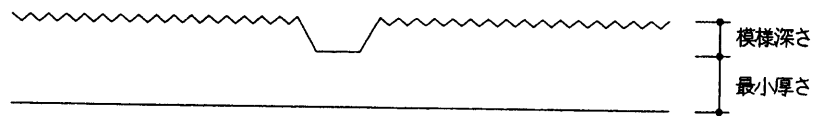
外装材の形状

単位mm

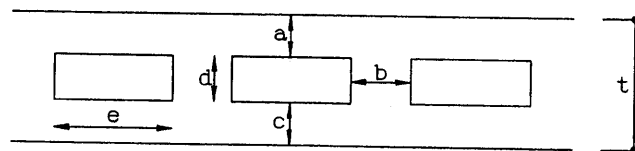
①端部形状



②断面形状



③中空品形状

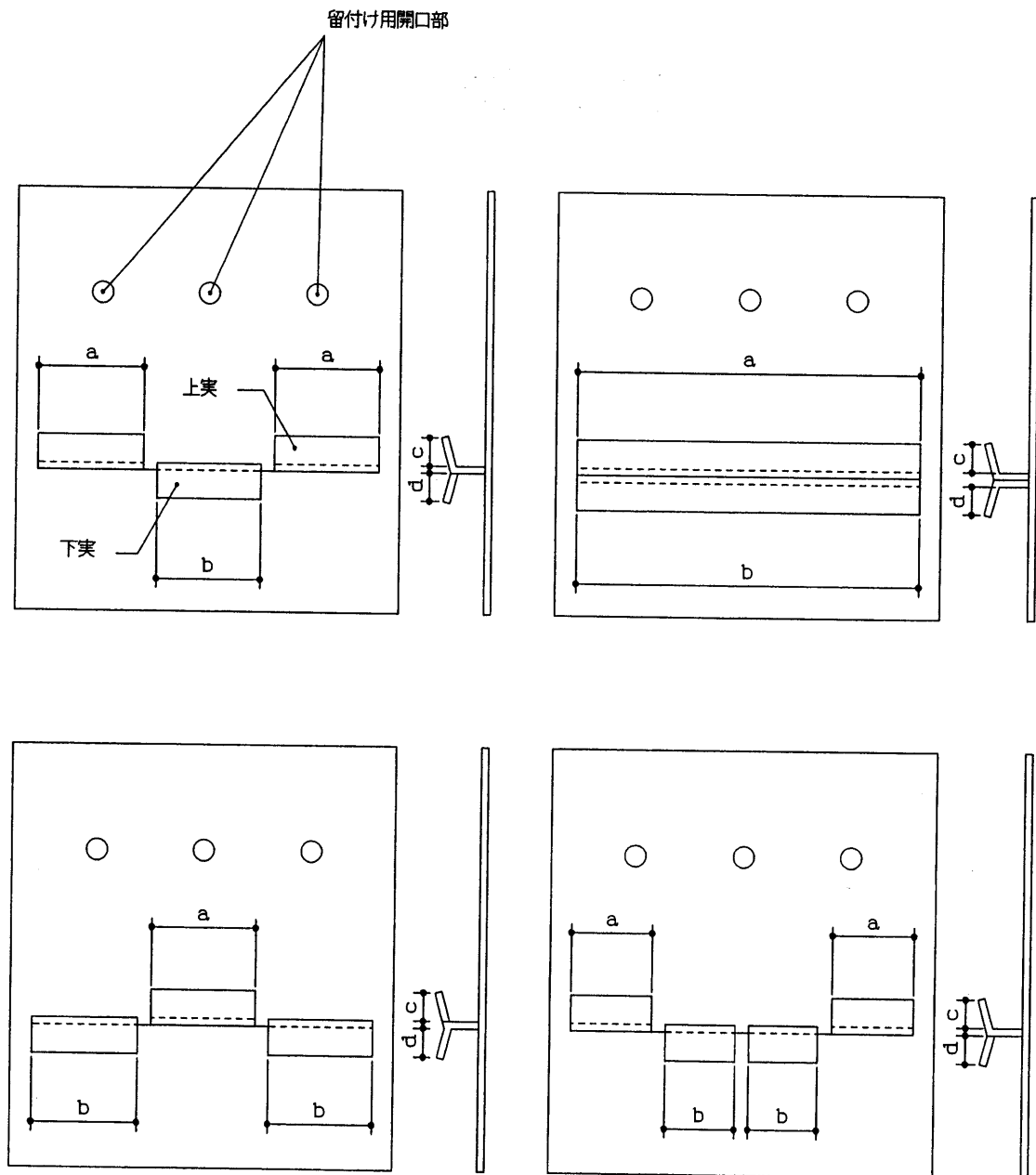


厚さ t : 15 以上
 a : 3 以上
 b : 3 以上
 c : 3 以上
 d : 9 以下
 e : t 以下

図6 構造説明図

外装材留金具の実寸法

単位mm



- ①上実の総幅 (Σa) : 15.8以上
- ②下実の総幅 (Σb) : 14以上
- ③上実の高さ (c) : 4以上
- ④下実の高さ (d) : 3.4以上

図7 構造説明図

6. 施工方法：

施工図を図8及び図9に示す。

施工方法は以下の手順で行う。

(1) 軸組

- ・柱及び間柱は500mm以下の間隔で取付ける。

(2) 構造用面材の取付

- ・構造用面材を留付材で縦張り固定する。くぎ等のピッチは周辺部100mm以下、中央部200mm以下とする。構造用面材を長さ方向に縦継ぎする場合は横目地に受材を取付ける。

(3) 防水紙の張付

- ・横張又は縦張とし、重ね代は縦90mm以上、横150mm以上とする。
- ・面材への留付けは幅10mm以上、足長10mm以上のステーブルで留付ける。
- ・張付けはできるだけたるみ、しわのないようにする。

(4) 胴縁を取付ける場合

- ・500mm以下の間隔でくぎ又はねじを用いて取付ける。
- ・外装材を横張する場合は、胴縁が柱又は間柱と通りが同じになるよう縦方向に配置する。
- ・外装材を縦張する場合は、胴縁が柱又は間柱と通りが同じになるよう縦方向に配置するか又は胴縁を柱又は間柱に対して横方向になるよう配置する。
- ・胴縁寸法で不陸のないように調整する。

(5) 外装材 (サイディング) の取付

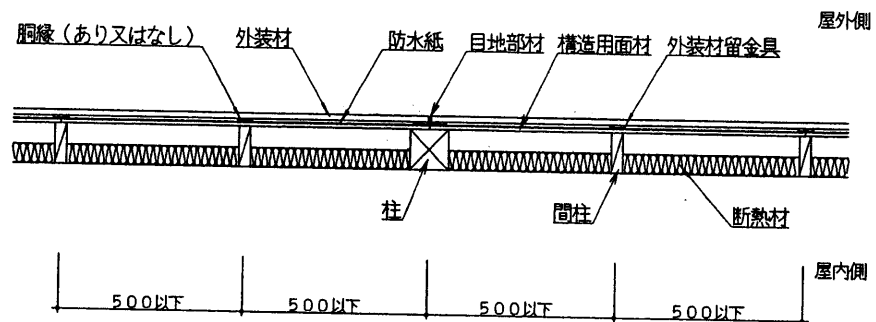
- ・サイディングの張り方仕様は、縦張又は横張とする。
- ・サイディングは、留金具で留付ける。
サイディングの種類に合わせた留付材を用いて所定の位置に留付ける。
- ・取付は、目地通りよく、不陸、目違い等のないように行う。
- ・サイディングの目地処理は以下の方法で行う。
 - ①バックアップ材とシーリング材の併用目地
 - ・目地幅は8～12mmになるように、サイディングを留金具で留付ける。バックアップ材を用いて、その上にシーリング材を隙間が生じないように充てんする。
 - ・バックアップ材は2.4g/m以上とする
 - ・シーリング材は56g/m以上充てんする。
 - ②ハット形ジョイナーとシーリング材の併用目地
 - ・目地幅は8～12mmになるように、サイディングを留金具で留付ける。ハット形ジョイナーを用いて、その上にシーリング材を隙間が生じないように充てんする。
 - ・シーリング材は56g/m以上充てんする。
 - ③金属ジョイナー目地
 - ・H形ジョイナーはサイディングをはめ込み、サイディングを留付けて押さえる。
 - ④本実・合いじゃくり・突付け目地
 - ・サイディングの重ね代及び隙間は指定寸法を確保し、上実・下実のいずれかの端部は相互に密着させるように張付ける。

(6) 断熱材の充てん

- ・断熱材を壁体中部に充てんし、断熱材固定用留付材で留付ける。
- ・柱又は間柱との隙間が発生しないよう注意する。

単位mm

外装材横張



水平断面図

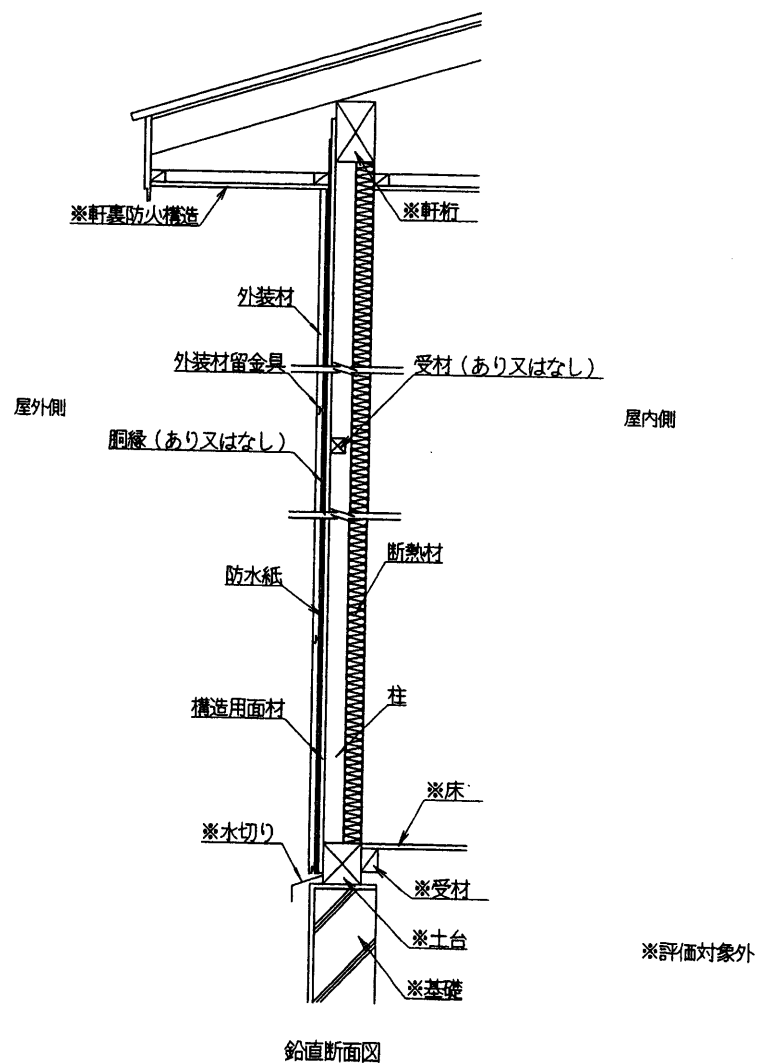


図8 施工図

外装材縦張

